『世界の日本語教育』9, 1999年6月

近代日・韓両言語における受身表現の変遷
——小説を中心に——

尹　鎬　淑*

キーワード: 非情の受身表現の多用，動作主のマーカーの多様，過渡的現象

要　旨

日・韓両言語は，近代以降西欧語の影響で著しく発達したものとしてよく指摘されている．本稿は，近世や近・現代における小説の実証的研究を通じ，日・韓両言語の受身表現が，西欧的受身表現の移入とともにどのように変遷したかを考察したものである．その結果，程度の差はあれ，両言語ともに使用頻度だけでなく統語的にも西欧語受身表現の影響を受けたことが明らかになった．

1. はじめに

1-1. 研究目的

日本語では，近代以降，語彙，音韻，文法，表現等，様々な面で多大な変化が生じた．受身表現においても，近代における論理的・客観的叙述法に伴う物質名詞の主語化により，非情の受身表現の多用や動作主のマーカーの「によって」の獲得等，顕著な変化が見られると言われている(金水 1994 等)．

韓国語の場合も，近代以前に直接的で明瞭な表現法がとられていたため，受身表現は少ないが，近年，多用される傾向にある．[1]韓国語における受身表現の多用は，一般に日本語の影響であると論じられる(宋 1979 等)が，日本語の受身表現も近代以降，西欧的表現の影響で著しく発達したと指摘されており(山本 1965；田中 1981 等)，韓国語の受身表現における日本語の影響も，近代以降に日本語が獲得した西欧的表現の間接的影響である可能性が高い．この影響関係は，両言語の歴史的背景にその原因が求められよう．つまり，日本語は西欧的表現を近代西欧文物の流入とともに直接的に受け入れているが，韓国語は，日本の植民地下で日本語を通じて間接的に受け入れているのである．

そのため，日本語では，受身表現をはじめとする西欧的表現法が，日本語表現の中で徐々に日本語化され現代に至る日本語表現の拡大という役まわりをはたしてきた(江湖山 1964; 田中 1981; 木坂 1988 等)と評価されているのに対して，韓国語の場合，西欧的受身表現は韓国語の表現体系を

* YOON Ho Sook:　広島大学大学院日本語教育博士後期課程．

汚した(이 1990)とされ，「国語純化運動」[1] の展開とともに排斥の対象とされている．

以上の点から，日・韓両言語の近代受身表現に関する研究は，現代受身表現の本質を究明し，両言語の受身表現に関する理解を深めるために必須の課題であると考える．

しかしながら，日本語の場合，近代受身表現に関する研究は，その数は多いものの，「非情の受身表現」に関する一部を除き，殆どが理論的考察に止まって，その中に近代作品の実例を通じた実証的研究を見出すことは難しい．同様に，韓国語でも近代の作品を直接分析した研究はない．

本研究では，近代作品の実証的考察を通じ，日・韓両言語の受身表現が，近代以降西欧語の影響下に発達した表現であるか否かを再検討し，影響が認められるとするならば西欧的受身表現が，近代語成立の過程で日・韓両言語にどのように流入し定着したかについて比較考察し，西欧的受身表現の移入とともに両言語における受身表現がどのように変遷したかを明らかにする．

1–2. 研究方法

近代における受身表現の特徴をより明確にするためには，隣接する時代との比較考察が必要であるので，小説を中心として近世や近・現代の受身表現の特徴について調べ，これらの変遷過程を通時的に考察する．小説を資料として用いる理由は，韓国語の場合，近世，ハングル(韓国語)で書かれた作品は物語類が殆どであり，同一ジャンルの資料を用いることが両言語の比較に適当であると考えるからである．

さて，日本語では，学者によって近代の認定が異なるが，受身表現の変遷過程は近代語の成立過程にほぼ応じており，本研究では近代文体成立期(山本 1965; 田中 1981 等)と言われる明治元年から昭和 20 年(太平洋戦争終了)までを近代として研究を進めることにする．

韓国語においても近代の起点をいつにするかについて議論の余地があるが，1894 年の「甲午更張」以来，近代的思考方式とともに新文体に変わるため，この時期から太平洋戦争の終了までを近代として認める立場が一般的である．本研究においてもこの立場をとる．

尚，韓国語のローマ字表記は「The Yale System of Romanization」に従うものとする．

2. 受身表現の意味・範疇

受身表現は二つの名詞が動詞と関連づけられ，一方が動作主，他方が被動作主の関係を形成し，後者が主語として，前者が「に」(韓国語の場合，「에게/eykey/」)等の助詞とともに表現される文法現象である．従って受身表現では，形態・意味だけでなく統語面も勘案されるべきである．

日本語の場合，従来，受身表現の説明に，形態・意味のほか，統語的観点から必ず格の変換がそ

[1] 国語を正しく綺麗に使おうとすること:『ハングル大辞典』語文閣 1994.

の基準とされながら「夢にうなされる」「度胆を抜かれる」等の格の変換によらない慣用句までが受身の範疇とされている[2]．動詞の形態だけで判断すると，このような文も受身文ということになるが，これらの文は対応する能動文をもたず，意味変化や意味拡大等の二次的意味派生によって被動性のない派生語となったものであるため受身表現として扱うには無理がある．

一方，韓国語では，代表的な受身形として「接尾辞被動 이，히，리，기/i, hi, li, ki/」「助動詞被動 지다 /cita/」，「被動詞 되다 /toyta/」等(以下，「이/i/ 被動」,,「지다/cita/被動」，「되다/toyta/被動」にする)がある．「被動詞」の中でも「되다 /toyta/」の他，「당하다/tanghata/」類の動詞まで認定する立場があるが，「당하다/tanghata/こうむる」という本動詞の語彙的意味に受身性があるに過ぎず，不規則で非生産的であるため，受身表現とするには無理がある．このほか「이/i/被動」の中でも「풀리다 /phwulita/(天気，疑い等が)晴れる」等，受身の意味から派生して自動詞化したものや，慣用句となったものには受身の意味が全くなく，対応能動文も持たない以上受身から除くべきである．従って，本研究では日・韓両言語とも，形態・意味・統語の三要件全てを備えたものを受身表現と規定する．

この他，韓国語の近・現代の小説には，

1) 여자 라커룸이라고 씌어진 문을 그녀가 드르륵 말었을 때…/yeca lakhelwumilako ssuyecin mwunul kunyeka tululuk milessl ttay/(『배드민턴치는여자』: 13)

〈女のロッカーと書いてあるドアを彼女ががらりに開けたとき…〉

のように受身表現の重畳形である「二重受身表現」が多数見られる(以下，用例に続くカッコ内の数字は，出典の頁数を指す)．これは近代以降日本語翻訳の影響による表現で，学者により受身の強調形或いは完全な受身形と見なす立場(成 1978)がある．これは日本語の受身表現を無理に直訳した結果使われはじめた誤訳の一種だと考えられるが，これも形態・意味・統語の三条件を備えているので本研究の考察に含める．

3. 日・韓両言語の受身表現の変遷

3-1. 使用頻度の急増

先ず日・韓両言語の近世や近代，現代の小説に用いられている受身表現の使用実態を調査し，その変遷を比較対照する．

日本語の小説に用いられた受身文の数は，近世が 10 作品総数 453 例，近代が 20 作品 4,554 例，現代が 10 作品 1,544 例である[3]．しかし，作品によって，言語量にかなりの差があるので，比較の

[2] 村木 (1991)「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」ではこれを「受動専用表現」と呼ぶ．
[3] 近代は明治，大正，昭和各時代における受身表現の特徴をより詳細に調べるために対象を 20 作品にした．

表1 日本語の小説における受身表現の使用頻度

	総受身文数	頁当たり受身文数
近世の物語	453	1.9
近代の小説	4,554	3.6
現代の小説	1,544	2.7

便宜上，全作品の1頁当たりの字数を日本語の近代日本文学全集(筑摩書房)に揃え，作品の総頁をそれぞれ用例の実数で割り，頁当たりの受身文の数を割り出して併記した．これを時代別に整理すると，表1のようになる．

表1によると，近世日本語における受身文の数が頁当たり平均1.9文であるのに対して，近代日本語の受身文の数は頁当たり平均3.6文を越え，近代以降受身表現の使用頻度が非常に高まったことが分かる．しかし，現代語においては近代語より受身表現が少なく，頁当たり平均2.7文に過ぎない．近代以降著しく増えた受身表現の使用が，現代になって減少した原因は何であろうか．これは，近代の作家たちが西欧語翻訳の影響で，受身表現を好んだあまり，「葉子にinspireされて(『或る女』:21)」等，西欧語をそのまま受身表現にしたり，「最初の蠟燭は或る時に燃え盡されるかも知れない(『暗夜行路』:16)」等，西欧的表現の影響による誤用を多用しているからである．しかし，西欧語的受身表現が徐々に日本語表現の中で日本語化し現代日本語に受け入れられるにつれて，このような不自然な受身表現も使われなくなっている．この他，会話文より地の文に用いられやすいという受身表現の性格上，現代小説に比して地の文が遥かに多い点も近代小説に受身表現の使用頻度が多い一因となると考えられる．

韓国語についても日本語の場合と同じ方法で受身表現の使用頻度を調べ，表2のような結果が得られた．

韓国語における受身文全体の割合は，近代までは日本語のそれに比べて極めて少なく，日本語が受身表現を多く使用していたのに対して，韓国語は受身表現より能動表現をよく使い，近代以降日本語や西欧語翻訳の影響で受身表現が多用されるようになったという既存の説は正しいと言える．尚，現代に至っては日本語より多く用いられるようになり，受身表現の増加率が日本語に比べて非常に高くなっていることが分かる．

但し，両言語共に，受身表現が全作品に等しく存在するのではなく，作家や作品によって若干の

表2 韓国語の小説における受身表現の使用頻度

	総受身文数	頁当たり受身文数
近世の物語	139	0.4
近代の小説	344	2.1
現代の小説	776	3.6

片寄りがある．例えば，有島武郎や金東仁には受身表現が多く見られるのに対して，山本有三や金裕貞には受身表現が少ないなど，欧文脈を好む作家には，他の作家の作品に比べて受身表現の用例が多く，これも受身表現に対する欧文脈の影響を表す現象の一つであろう[4]．

3-2. 形態的変遷

日本語の受身表現は上代の作品にも用例が見られるほど長い歴史を持っている．しかし，時代によって形態的な変化が見られ，上代までは，「(ら)ゆ」が用いられ，中古以後は「(ら)ゆ」は滅びて，専ら「(ら)る」が用いられた(和田 1984)．これが，近世の資料では，「(ら)れる」が一般的で(例 2)，終止形や連体形には「(ら)るる」も見られる(例 3,4)．しかし，「する」の受身形は下例 5) のように「される」と「せられる」が混用されている．

2) ある時は口舌をしいだし，大に振られて，馬をつなぎ，又ある時は，「後の世まで」とかたらはれて(『浮世物語』「傾城ぐるひ異見の事」)

3) 唐の玄宗は楊貴妃を愛して禄山に世を乱さる．(『田夫物語』)

4) 千筋の縄を腰につけ，ひきもどさるる心地して，(『露殿物語』上)

5) かしらに帥顔をせらるるによって粋人ぶったかをされるので，(『好色一代女』「淫婦の美形」)

近代語にも擬古文の作品を除き，明治 20 年代まではこの傾向が引き続き(下掲例 6, 7)，明治 30 年代から徐々に「(ら)るる」や「せられる」が減少し，現代語においては使われなくなる．

6) 新平民は斯うして世に知られずに葬り去らるるのである．(『破戒』: 52)

7) 學は…最も俠氣あるをもて人に稱せらる．(『小説神髄』: 100)

このように日本語の場合，受身を表す文法形式は，ごく一部の動詞(ある，できる等，三上の言う所動詞)[5] を除いては「(ら)れる」による受身形が，殆ど適用されるが，韓国語では，前述のように，「이/i/被動」，「지다/cita/被動」，「되다/toyta/被動」等，多様である．これらは形態的な変化だけでなく，三者間の頻度においても変化が見られる．形態的な変化としては，「이，히，리，기/i, hi, li, ki/」は現代語とそれほど変わらない(裵 1988)が，「지다/cita/」と「되다/toyta/」は各々「디다/tita/」「되다/toyta/」に由来し，「지다/cita/」の場合，近世の作品には「디다/tita/」「지다/cita/」両方が見られる．また，沈 (1981) によれば，この中で，受身の意味が最も強い典型的な受身文は「이/i/被動」による受身文で，古典の作品における「이/i/被動」の多用を見ると，この受身形が最も早く使いだされたのではないかと思われる．

近世の小説でも，「이/i/ 被動」の用例が殆どで，「지다/cita/被動」は 4 例しか見られず，「되다 /

---

[4] 特に白樺派の文章には，欧文脈の全面的な導入により，受身表現だけでなく，代名詞，無情物及び抽象名詞の主語，比喩表現，接続語，文章符号が多用されている．(拙稿 1999)

[5] 三上 (1970) は，受身になるかならないかという点から動詞を二分して，能動詞と所動詞とする．

表3 韓国の小説における受身の形式別出現頻度

受身形式・時代	近世	近代	現代
이/i/被動	131 (96.3)	240 (69.7)	424 (54.6)
지다/cita/被動	5 (3.7)	65 (18.9)	243 (31.4)
되다/toyta/被動	0 (0)	39 (11.4)	109 (14.0)

カッコ内は割合を表す.

toyta/」は1例も使用されていない.

8) 내 몸 은경사로 잡혀가지만… /naymomun kyengsalo caphyekaciman/ (『九雲夢』: 54)
〈私(の体)は捕らえられキョンサへ連れて行かれるが〉

9) 너희형이가도아져서… /nehoy hyengi katoacyese/ (『癸丑日記』: 118)
〈あなたのお兄さんが監禁されて〉

しかし，近代以降，西欧語の影響で論理的叙述・客観的描写が増加するにつれて，表3に窺えるように，受身の意が弱い「지다/cita/被動」や「되다/toyta/被動」が増えはじめ，現代語では著しく増加する(下掲例10, 11)．特に近代以降は「하다/hata/する」系動詞の増加によって，「하다/hata/する」の受身形である「되다/toyta/される」も目立って多くなっている．また，韓国語の受身表現には，近代以降12)のように「이/i/被動」と「지다/cita/被動」の重畳形である「二重受身表現」(一般に「重被動」とも呼ぶ)が多く使われているが，このような「二重受身表現」は現代になって顕著に増える．

10) 트렁크속에는… POUDRE. VERTUEUSE 가 複製 된것과함께가득채워져있다 / thuleng-khusokeynun … POUDRE. VERTUEUSE ka pokceytoyn keskwa hamkkey katuk chaywecyeissta/ (『鳥瞰圖』: 63)
〈トランクの中には… POUDRE. VERTUEUSE がコピーされたものと一緒にいっぱいつまっている〉

11) 우리들의 부채질은 사람들때문에 중지되지 않을수가 없었다/wulituluy pwuchaycilun salamtulttaymwuney cwungcitoyci anhul swuka epsessta/ (『笞刑』: 55)
〈うちわで扇ぐことを人に止めさせられてしまった〉

12) 문은 다시 닫혀지고 계집은 들어갔다/mwunun tasi tathyeciko kyeycipun tulekassta/(『물레방아』: 38)
〈扉がまた閉められて女は入ってしまった〉

以上のことから，本来受身表現を好まない韓国語にあって，受身形が日本語より多様となってくるのは近代以降のことであると言えるだろう．また，韓国語の受身形に三種類が存在するわけは，自動詞と関連づけて考えられるが，大野 (1988) によれば，日本語の場合，自動詞を作る語尾「る」と受身「(ら)る」は起源的に同じもので，同様のことが韓国語にも当てはまると思われる．即

ち，韓国語の受身形「이，히，리，기/i, hi, li, ki/」や「지다/cita/」，「되다/toyta/」は，自動詞の派生語尾にもなるので，受身の始源となる自動詞の造語語尾が多様である韓国語で，日本語より受身形が多くなると考えられる．

次に，近代以前に韓国語で日本語より受身表現が少なかった原因について調べてみると，能動表現を多く用いるという韓国人の言語習慣と国民性以外に，幾つかの言語的要素が考えられる．先ず，韓国語では，受身表現の代わりに対応動詞(筆者注：反対の意を持つ動詞)が多用されることが挙げられる．例えば，「때리다/ttaylita/殴る」の場合，日本語には「殴る」の対応動詞はなく，受身形の「殴られる」が使われるが，韓国語では「때리다/ttaylita/殴る」の受身形は存せず，対応動詞の「맞다/matta/殴られる意味を表す動詞」が用いられる．近世の作品にも，対応動詞が少なからず使用されているが，特に「～을 입다/～ul ipta/～をこうむる」の例が13)のように多く見られる．

13) 소데우연이제형의 사랑ㅎ믈입어…/sotyey wuyeni cyeyhyenguy salanghamulipe/(『九雲夢』：64)

〈僕，幸い兄に愛され(愛をうけ)〉

また，近世韓国語においては，14)のように，自動詞と他動詞を兼ねている動詞が多いことも受身表現が少ない原因になっている．これらの動詞は近代以降，他動詞だけに用いられ，自動詞の機能は「지다/cita/」の受身形が担う場合が多くなり，「지다/cita/」受身表現が増加する一因になる．

14) 둔갑지술을 히ㅎ야 변화ㅎ니 허물이벗ᄂᆞᆫ지라/twunkapciswulul haynghaya pyenhwahani hemwuli pesnuncila/(『朴氏婦人傳』：176)

〈忍術で(変身したら)肌の皮がむける〉

3-3. 構文論的変遷

受身表現は一般的に，受身文の構成要素である行為の主体(動作主)と行為の受け手(受身文の主語)，またその述語動詞の使い分けによって分類されるので，これらを中心にして受身表現の構文論的変遷を考察する．

3-3-1. 非情の受身表現の増加

日本語の受身表現においては，主語としていかなるものが許されるかよく問題とされる．山田(1908)，金田一(1959)等は，非情の受身表現は純粋な日本語の受身表現ではなく，近代以降西欧文の翻訳文の影響で盛んに使われるようになったという非情の受身表現の「非固有説」を唱えている．しかし，小杉(1979)，奥津(1983)等は，古典の作品から多くの非情の受身表現の例を挙げて，「非固有説」を否定している．確かに日本語の受身表現には，有情物(人またはそれに準ずるもの)を主語とする有情の受身表現(下掲例15)が多い．しかし，16)のように，非情の受身表現も見られ，非情の受身表現の「非固有説」を主張する文法学者の意見が必ずしも正しいとは言いがたい．本調査

表4 日本語の小説における受身表現の主語の使用頻度

	有情の受身表現	非情の受身表現
近世	414 (91.5)	39 (8.5)
近代	3,037 (66.8)	1,512 (33.2)
現代	829 (53.7)	715 (46.3)

カッコ内は割合を表す.

によれば，非情の受身表現は古くから例が見られるが，近・現代ほど多くはない(表4参照).

15) また踏まれてはならぬぞと，駆出してこそ走りけれ，(『心中二枚絵草紙』「お島への気遣い」)

16) 余所には漏ぬむかしの文枕と，かいやり捨られし中に，(好色一代男』「跋文」)

要するに，日本語の受身表現には，古くは，受け手が「利害」の感情を持つ有情の受身表現が多かったが，近代以降論理的叙述や客観的な描写法の発達により下例のように「中立」の意を表す非情の受身表現が次第に増え，現代では受身表現全体の約5割を占めている．これは，非情の受身表現が近代以前には大体1割程度，近代には3割程度であるのに比べて相当な変化であると言える.

17) 空想は現実によって破られるかもしれない．(『お目出たき人』: 18)

18) 空はいよいよ暗澹として，一面の灰紫色におおはれて了つた．(『破戒』: 96)

また内容的にも近代以降とは異なる様相を見せるが，小杉(1979)は主として，平安仮名散文から非情の受身の用例を多数集め，主語は大体自然現象であるか，人間の身体や家具等に関する表現等が多いと述べている.

本調査でも，近世の小説に用いられる非情の受身文の主語は，星，夕，葉，里の門，水車，米，麦等，知覚された状況や自然現象を描写する場面で用いられるものが多く(例19)，近・現代の小説には，抽象名詞や抽象的概念の名詞句が多数使われるようになる(例20).

19) 川端石垣の際には，世にかくれなき水車ふたつまで立てられ(『浮世物語』「大坂くだり付大工異見物がたりの事」)

20) 彼女のために今日まで拂つた犠牲と苦勞とが，一度に報いられたやうな心地がしました．(『痴人の愛』: 49)

一方，韓国語では，上にも示したように受身表現の使用条件が日本語と異なるため，受身文の主語においても夥しい差が見られる(表5参照)

即ち，日本語では迷惑の受身表現の多用により，非情の受身表現に比べて有情の受身表現の使用が顕著だが，韓国語の場合，迷惑の受身表現が存在しないため，有情の受身表現が少なく，非情の受身表現の比率が高い．但し，非情の受身表現も多くが自動詞の代わりに使われているので，日本語に比べて類型的に多様でなく，動作主が初めから想定されない場合の多い点が特徴である．これは日本語に訳すと，下例21), 22)のように，通例，自動詞になる.

表5 韓国語の小説における受身表現の主語の使用頻度

	有情の受身表現	非情の受身表現
近世	54 (39.2)	85 (60.8)
近代	124 (36.1)	220 (63.9)
現代	148 (19.1)	628 (80.9)

カッコ内は割合を表す.

21) 상이 그 모양을 보시며 현심이 막히고 무어지는듯하사/sangi ku moyangul posimay thyensimi makhiko mwuecinantashasa/ (『仁顯王后傳』: 274)

〈王様がその様子をご覧になって胸が詰まって張り裂けそうである〉

22) 이럼으로 명망이 조야에 덮혓더라/ilemulo myengmangi cyoyaey tephyestela/ (『意幽堂日記』: 16)

〈こうして名声が天下に広まった〉

勿論，日本語も非情の受身表現は，自然環境等，自動詞の代わりに用いられる受身文もあるが，割合において韓国語より少なく，動作主がありながら文面に表されず省略される場合が多い．尚，韓国語の場合，主語として，体，雲，橋，石等，具体名詞のほか，例23)のように，心，恨，言葉等，抽象名詞も多く用いられ，先に述べたように具体名詞が殆どである日本語の受身表現とは対照的である．但し，韓国語も近代以降日本語と同様，西欧語の影響で論理的・客観的叙述法により例24)のように，抽象名詞や抽象名詞句の受身表現が増え，非情の受身表現がさらに多く用いられるようになる．また，25)のような「文明語」の増加も非情の受身表現が増える一因になる．

23) 전일을 뉘웃치고 이제를 늣겨 한이 골슈의 잠겨거늘/cyenilul nwiuschiko icyeylal nuskye hani kolsyuuy camkyekenul/ (『仁顯王后傳』: 302)

〈前の事を反省し悔いが残る(骨身に沁みる)〉

24) 「오늘」이라는 것이 내 앞에 펼쳐져 있으면서…/「onul」ilanun kesi nay aphey phyelchyecye issumyense/ (『倦怠』: 232)

〈「今日」というものが私の前に開かれていながら…〉

25) 순사가 나와서 책상위에 놓인 전보를 보면서…/swunsaka nawase chayksangwiey nohin cenpolul pomyense/ (『無情』: 226)

〈巡査が出てきて机の上に置かれた電報を見ながら…〉

3-3-2. 動作主や動作主のマーカーの多様化

動作主は，行為の主体を，動作主のマーカーとは，動作の主体を示すのに使われる「に」「から」「によって」等の助詞を指す．

動作主も，受身文の主語と同様，有情物と非情物とが使われるが，金水(1991: 9)は，日本語の

場合，近代以前には，主語が有情物の場合，動作主も有情物で，主語が非情物の場合，動作主も非情物であるのが一般的であると述べている．近世の物語の場合も，主語が有情物であれば動作主も有情物であり，主語が非情物であれば動作主も非情物である文が多いが，主語が有情物でも動作主は非情物である受身表現や，主語が非情物でも動作主は有情物であるもの等，比較的多様な受身表現が使用されている．

しかし，近代以前には，非情の受身表現の場合，動作主が有情物であるケースが極めて少ない等，類型によって数的に偏りが見られる．近代以降は全ての類型が広く用いられ，量的な変化が認められる．

但し，受身表現の場合，動作主が文の表面に表されるものより省略されるものが多く，有情の受身，非情の受身共に，動作主の省略が多い点では近代以前と以後とで大差はなかった(近世 68%，近代 72%，現代 83%)．

更に，動作主が省略される条件も近世と近代とで同じであり，日本語に受身発達の要素が近代以前から備わっていたことが分かる．

次に，日本語の受身文では，動作主のマーカーとして普通「に」「から」「によって」「で」等が挙げられる(細川 1986; 佐伯 1987 等)が，古くから現代に至るまで最も多く使われているのは「に」である(表 6 参照)．

しかし，他の動作主のマーカーにおいては使用頻度に差を見せ，表 6 のように，「のために」「より」「にて」「を以て」が近代以降次第に少なくなり，現代語では「に」「から」「で」に置き換えられているのに対して，「から」「で」「によって」は増える傾向にある．特に，「によって」は，金水(1994) 等の指摘通り，近代以降西欧語の影響で，文章表現が客観的，論理的になる中で新たに生み出された表現で，明治 30 年代から使われ始め，時代がさがるにつれて増えている．また，他の動作主のマーカーは意味的に大きな変化がないが，「によって」は近代語で，いわゆる「原因・

表 6　日本語の小説における動作主のマーカーの使用頻度

	近世	近代	現代
省略	313 (69.1)	3,225 (70.8)	1,288 (83.4)
に	133 (29.3)	1,002 (22.0)	215 (13.9)
のために	0 (0)	46 (1.0)	0 (0)
より	2 (0.6)	4 (0.1)	0 (0)
から	0 (0)	182 (4.0)	74 (4.8)
で	0 (0)	64 (1.4)	15 (1.0)
にて	0 (0)	3 (0.07)	0 (0)
を以て	0 (0)	1 (0.02)	0 (0)
によって	0 (0)	27 (0.6)	32 (2.1)

カッコ内は割合を表す．

理由または手段・方法」を明示する場合が多かった(用例数の56.7%)ものが，現代語では「動作主を取り立てていう意味」を示す場合(用例数の64.7%)が多く，変化が認められる．

以上，日本語の場合，近世では動作主のマーカーが，近代ほど多様ではなく，近代以降受身表現の発達と関わって変化することを概観した．

一方，韓国語の受身表現は，動作主が想定されない場合か，自動詞の意味に近い表現で用いられる場合が多いため，日本語に比べて動作主の表示される比率が高くない．従って，動作主のマーカーも相対的に少なく，分布にも偏りがある(表7参照)．

表7からも窺えるように，動作主のマーカーはその種類が多様でなく，近世が3種類，近代が4種類，現代が5種類に過ぎない．更に，「에게/eykey/」「의/uy/」「에/ey/」「한테/hanthey/」は日本語の「に」に当たるもので，「에게/eykey/」と「한테/hanthey/」は動作主が有情物，「의/uy/」と「에/ey/」は動作主が非情物の場合に使われ，「에게/eykey/」の口語形である「한테/hanthey/」や，「에/ey/」の古語形である「의/uy/」を区別しない場合韓国語における受身表現の動作主のマーカーは一段と少なくなる．日本語の「から」に当たる「로부터/loɔuthe/」は現代語に用いられるものであるが，今回の調査では一例も見られなかった．また，日本語の「によって」に当たる「에의해서/eyuyheyse/」は，近代語には見られず，現代語にのみ6例用いられていることから，日本語に比べて西欧語の影響が遅れていることが分かる．例を挙げると以下の通りである．

26) 노인들이야 신고가 되는 대로 관리 직원들에 의해 모두 별관으로 옮겨지기도 했지만./ nointuliya sinkoka toynur taylo kwanli cikwentuleyuyhey motwu pyelkwanulo omkyecikito haysciman/ (『잔일』: 156)

〈老人たちは申告がなされるとすぐ管理人によってみんな別館に移されることもあったが〉

尚，韓国語の動作主のマーカーは意味的にも多様でなく，「에게/eykey/」「한테/hanthey/」は「被動作主に対する動作主の働きかけ」を，「의/uy/」「에/ey/」「에의해서/eyuyhayse/」は「被動作主に対する動作主の働きかけ」や「原因，理由及び手段」を，「(으)로/(u)lo/」は「理由及び手段」の意を表し，時代による差はなかった．

表7 韓国語の小説における動作主のマーカーの使用頻度

	近世	近代	現代
省略	116 (83.5)	275 (80.3)	688 (88.7)
의/uy/	11 (8.2)	0 (0)	0 (0)
에/ey/	3 (2.1)	20 (5.9)	63 (8.1)
에게/eykey/	13 (9.3)	35 (10.6)	9 (1.2)
으로/ulo/	0 (0)	10 (2.8)	5 (0.7)
한테/hanthey/	0 (0)	1 (0.3)	4 (0.5)
에의해서/eyuyhayse/	0 (0)	0 (0)	6 (0.8)

カッコ内は割合を表す．

以上，韓国語における動作主のマーカーが多様多彩でない点から，韓国語では日本語に比べて動作主のマーカーにおける変遷が明らかでないと言える．

3-3-3. 受身の上接動詞の増加

釘貫(1991)によると，仮名書きされた日本の上代語文献における受身の上接動詞(筆者注: 助動詞等に上接する動詞，釘貫 1991 に基づく)は異なり語数 8 語に過ぎず，表現も極めて類型的，固定的である．しかし，受身表現は時代が下がるにつれて次第に多くなり，中世には数量的，構文的に急速に膨張し，近代以後再び大変動期を迎える．

小説について見ると，動詞においては，主語や動作主におけるほど劇的でないものの，近代以降に変遷を指摘することができる．これは，近代以降「新築される」等，「する動詞」の新造による「される」の増加(近世語では全受身の 3.2%，近代語では 12.8%)や複合動詞の増加(近世語では受身全体の 11.4%，近代語では 18.4%)が重要な要因の一つになっている．

27) 金は斯して黙って受取られ，又黙って消費されてしまった．(『道草』: 318)

28) その織り交ぜられた絲をほぐして見ることは，… (『雁』: 104)

韓国語でも，近代を境にして受身表現の顕著な変化が見られ，受身文の動詞も目立って多くなる．即ち，韓国語の近世小説に見られる受身の上接動詞の数は，異なり語数 46 語で，日本語の受身表現に比べて非常に少なく，しかも「잡히다/caphita/捕まえられる」(11 個)，「묻치다/mwuschita/埋められる」(4 個)，「놓이다/nohita/放される」(5 個)等，動詞によって偏りが見られるが，近代以降は殆どの動詞に付けられる「지다/cita/被動」の増加とともに上接動詞の数も著しく増加する．

また，日本語と同様，「하다/hata/する」動詞の受身「되다/toyta/される」の増加(近世語では 0%，近代語では 11.4%)や複合動詞の増加(近世語が 8.2%，近代語が 10.6%)も受身の上接動詞増加の一因となる．

この他，韓国語の場合，先述したように「二重受身表現」や自動詞の受身表現(下掲例 29)等，韓国語としては不自然な受身表現が近代以降日本語の影響で多く見られ，受身の上接動詞における増加率が，日本語に比して高いことが知られる．

29) 부드러운 바람이 슬적 불어지나갈 때에 두처녀의 몸과 머리에서 나는늣만듯한 향내가 불려온다./pwutulewun palami sulcek pwulecinakal ttayey twuchyenyeuy momkwa melieyse nanuntusmantushan hyangnayka pwullyeonta/ (『無情』: 100)

〈柔らかい風がそよそよと吹いていく時二人の乙女の体と髪より仄かな香りが吹かれて(吹いて)くる〉

3-4. 過渡的現象

日・韓両言語ともに，近代は受身表現が現代語ほどには定着しておらず，過渡期であると言える

が，日本語の場合，動詞の過渡期的現象として既然態の「られてある」や視点不一致等が挙げられる．「られてある」は，学者によって「作家個人の好みであって，あまりいい表現ではない」(今泉 1983: 67 等)と言われるが，これは，近代以降西欧語の影響下に受身表現を好んだあまり乱用と思われるほど頻用されたものであると考える．本調査では，この表現は明治 45 年から多用されている(例 30)が，現代小説においては一例も見られなかった．

30) 弁當には玉子焼と漬物とが入れられてあった．(『田舎教師』: 136)

また，日本語では視点の一致のため受身文が選択される場合が多いが，近代の小説には例 31) のように，主節が受身文で従属節が能動文である視点不一致も見られる．

31) 細い釘店の往来は…門並綺麗に掃除されて，打水をした上を，氣のきいた風体の男女が忙しさうに行き来してゐた．(『或る女』: 22)

近代韓国の小説にも主節と従属節の視点が一致しない文が 32) のように数多く用いられている．また，近代韓国語には自動詞の受身表現(例 33)等，日本語の影響によるもので韓国語としては不自然な表現も多々見られる．

この他，近代以降日本語の翻訳の影響で「二重受身表現」が増えるが，これについては前述したとおりである．

32) 궤짝위에 농짝도 놓고 … 단정히 놓인 것도 있지마는 곧 내려질듯한 것도 있었더라/ kweyccakwiey nongccakto nohko … tancenghi nohin kesto isscimanun kot naylyeciltushan kesto issesstela/ (『血의淚』: 20)

〈櫃の上に小箪笥も置き…ちゃんと置かれたものもあるが今にも落ちてきそうなものもあったよ〉

33) 나의 뒤엣사람으로 말미여 등도 붓어젓다./nauy twieyssalamulo malmiye tungto pwutecyessta/ (『笞刑』: 42)

〈後ろの人のせいで背中もくっついた〉

4. 結　論

近代は，近代語法の形成とともに，それが現代語法を用意したことから，日・韓両言語の語法史の上で，特に注目される時期である．更に，近代は，現代語に見られる表現が，様々な選択・模索の過程を経て現代語法へと定着していく過渡期でもある．

本研究では，近代以降日・韓両言語の受身表現が西欧語の影響をどのように受け，変遷したかについて考察したが，両言語ともに程度の差はあれ，使用頻度だけでなく統語的にも西欧語の受身表現の影響を受けたことが明らかになった．

但し，日本語の場合，元々受身表現が好んで用いられる傾向にあったため，土屋 (1963) の言う

ように，西欧的な受身表現を発達させる土壌が近代以前に醸成されており，両者がうまく同化融合したと言える．一方韓国語の場合，近代以前には，日本語に比べて受身表現が極めて少なく，類型的にも多様でなかったため，近代以降に日本語を通じた西欧語の影響で著しく変化し，韓国語としては本来不自然な表現すら少なくない．従って，近代以降の受身表現の変遷には，西欧語とのかかわり合いを無視しえないし，特に，韓国語では，日本の植民地下の影響といった時代の趨勢を考えないわけにはいかない．

引 用 文 献

今泉忠義 (1983) 「受身の表現」『論集日本語研究 現代語』，有精堂．
江湖山恒明 (1964) 「欧文脈」『講座現代語 2 現代語の成立』，明治書院．
大野　晋 (1988) 『日本語の文法，古典編』，角川書店．
奥津敬一郎 (1983) 「何故受身か —〈視点〉からのケース・スタディー」『国語学』132.
金水　敏 (1991) 「受動文の歴史についての一考察」『国語学』164.
——— (1994) 「受動文の固有・非固有性について」『近代語研究 9』，近代語学会．
金田一春彦 (1959) 「日本語の表現」『日本文化研究』，新潮社．
小杉商一 (1979) 「非情の受身について」『田辺博士古希記念助動詞動詞論叢』，桜楓社．
佐伯哲夫 (1987) 「受動態動作主マーカー考(上，下)」『日本語学』，明治書院．
田中章夫 (1981) 「近代語(明治)」『現代文法との史的対照 講座日本語学 3』，明治書院．
釘貫　亨 (1991) 「助動詞〈る・らる〉〈す・さす〉成立の歴史的条件について」『国語学』164.
土屋信一 (1963) 「東京語の成立過程における受身の表現について」『国語学』51.
細川由起子 (1986) 「日本語の受身文における動作主のマーカーについて」『国語学』144.
三上　章 (1970) 『文法小論集』，くろしお出版．
村木新次郎 (1991) 「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」『日本語のヴォイスと他動性』，くろしお出版．
山田孝雄 (1908) 『日本文法論』，宝文館．
山本正秀 (1965) 『近代文体発生の史的研究』，岩波書店．
和田利政 (1984) 「る・らる(付ゆ・らゆ)」『古典語・現代語助動詞動詞詳説』，学燈社．
尹　鎬　淑 (1996) 「近世における受身表現の特徴— 日・韓両言語の対照的考察」『広島教育学部紀要』45.
——— (1998) 「近代における翻訳小説の中の受身表現——韓国語との対照的考察——」『表現研究』67，表現学会．
——— (1998) 「近代日・韓両語における受身表現の対照研究——新聞を中心として——」『朝鮮学報』164，朝鮮学会．
——— (1999) 『木坂基教授退官記念論文集 日本語表現法論攷』，渓水社．
이 오 덕 (1990) 「우리소설에나타난 남의나라말과 말법」『국어생활』23.
宋　敏 (1979) 「言語の接触と干渉類型」聖心女子大学論文集．
沈 在 箕 (1981) 『國語語彙論』，集文堂．
裵 禧 任 (1988) 『國語被動研究』，高麗大学校．
成 光 秀 (1978) 「국어간접피동에대하여」문법연구 3.

用例文献

(日本の小説)

露殿物語(作者未詳 1624 頃)，田夫物語(作者未詳 年代未詳)，浮世物語(浅井了意 1661 頃)，好色一代男(井原西鶴 1682)，世間胸算用(井原西鶴 1692)，骨根崎心中(近松門左衛門 1704)，心中二枚絵草子(近松門左衛門 1707)，世間息子気質(江島屋其磧 1716)，雨月物語(上田秋成 1768)，南総里見八犬伝(滝沢馬琴

1814)：以上『日本古典文学全集』(小学館)/小説神髄(坪内逍遥 1885)，細君(坪内逍遥 1889)，浮雲(二葉亭四迷 1887)，武蔵野(山田美妙 1901)，舞姫(森鴎外 1890)，金色夜叉(尾崎紅葉 1897)，不如帰(徳富蘆花 1898)，破戒(島崎藤村 1906)，田舎教師(田山花袋 1909)，刺青(谷崎潤一郎 1910)，羅生門(芥川龍之介 1915)，鼻(芥川龍之介 1916)，道草(夏目漱石 1915)，幸福者(武者小路実篤 1919)，或る女(有島武郎 1919)，暗夜行路(志賀直哉 1921)，小魚の心(眞杉静枝 1927)，機械(横光利一 1930)，真実一路(山本有三 1935)，雪国(川端康成 1937)：以上『近代日本文学全集』(筑摩書房)/若き数学者のアメリカ(藤原正彦 1977)，新橋烏森口青春篇(椎名誠 1987)，女社長に乾杯(赤川次郎 1982)，コンスタンティノープルの陥落(塩野七生 1983)，世界の終わりとハードボイルドワンダーランド(村上春樹 1985)：以上新潮文庫/哀しい予感(吉本ばなな 1988)，愛をする人(堀田あけみ 1990)：以上角川書店/ハーレムワールド(山田詠美 1990)，家族シネマ(柳美里 1997)：以上講談社/漫才病棟(ビートたけし 1993)：以上文春文庫.

(韓国の小説)

운영전(유영 1616)，洪吉童傳(許筠 17C 初)，전우치전(作者未詳 16C 頃)，朴氏婦人傳(作者未詳 17C 中頃)，仁顯王后傳(作者未詳 17C 末)，九雲夢(金萬重 1689)，春香傳(作者未詳 17C 初)，癸丑日記(作者未詳 17C 初)，意幽堂日記(延安金氏 17C 末)，여항소설(作者未詳 19C 頃)：以上『韓國古典文学選』(홍신문화사)/血의淚(李人稙 1906)，치악산 (李人稙 1908)，少年의悲哀(李光洙 1916)，無情(李光洙 1917)，貧妻(玄鎭健 1921)，운수좋은날(玄鎭健 1924)，被告(金東仁 1924)，감자(金東仁 1925)，물레방아(羅彬 1925)，名画리디아(金東仁 1927)，발까락이닮았다(金東仁 1931)，故鄕(李箕永 1933)，三代(廉想涉 1931)，봄봄(金裕貞 1933)，총각과맹꽁이(金裕貞 1933)，常緑樹(沈薫 1935)，메밀꽃필무렵(李孝石 1936)，倦怠(李箱 1937)，泥濘(韓雪野 1939)，蔡萬植(蔡萬植 1946)：以上『近代朝鮮文学全集』(朝鮮日報出版部)/崔氏家의憂鬱(朴泰洵 1974)，우리들의葬禮式(朴範信 1975)，外人들 (金龍雲 1978)，누이와늑대 (韓勝源 1980)，金翅鳥(李文烈 1983)：以上『現代의韓國文學』(汎韓出版社)/배드민턴치는여자(신경숙 1993 문학과지성사)，잔일(윤영수 1994 민음사)，세상의다리밑(최인석 1995 고려원)，나비의꿈(차현숙 1995 소설과사상)，타인에게말걸기 (은희경 1996 문학동네).